

2026年3月2日
プレスリリース No.033-25

東日本大震災から15年 国際文化学科の内尾太一准教授が3.11の研究成果をまとめた書籍を出版しました

本学文化政策学部国際文化学科の内尾太一准教授(文化人類学)が、本学令和7年度出版助成を受け、東日本大震災から15年を迎える2026年2月25日に、『津波の人類学——海を越えた東日本大震災』(東京大学出版会)を出版しました。

■「東日本大震災」は日本だけの災害だったのか？

前著『復興と尊厳』で東日本大震災の被災地を5年にわたり調査する中、被災者から1960年のチリ地震津波の語りを耳にした内尾准教授は、3.11の津波の海外への影響を考えるようになりました。そして、太平洋対岸へと調査を広げ、これまでの東日本大震災研究と一線を画す成果を提示しています。

■南米チリ・イースター島・アメリカ西海岸でのフィールドワーク

本書は3.11の津波が太平洋を越えて南米・ポリネシア・北米へと波及した事実を、約10年のフィールドワークを通して明らかにします。津波の影響を、国境を越えて広がる物質的・生態的・文化的連鎖として捉え直し、従来の「被災地」という枠組みを補完する新たな概念「被災圏」を提示します。

■南海トラフ地震への示唆

本書は3.11を主軸としつつ、過去の津波災害や将来発生が想定される南海トラフ地震にも言及しています。太平洋の両岸で影響し合う津波への備え、そして将来の大規模災害を契機とする国際的連帯を考える上でも、本書は重要な視点を提示しています。太平洋に面し、南海トラフ地震の想定域に位置する多文化都市・浜松から、この国際共生の視点を発信することは、地域防災と世界をつなぐ実践的な意義を持っています。

■書籍概要

タイトル:津波の人類学——海を越えた東日本大震災

著者:内尾太一

出版社:東京大学出版会

定価:3,740円(本体3,400円+税)

刊行日:2026年2月25日



本書のHP (東京大学出版会)

<本リリースに関する問い合わせ>

静岡文化芸術大学 内尾太一研究室

E-mail: t-uchio@suac.ac.jp Tel: 053-457-6148

公式 Web サイト

